

## 第8回 四日市市都市総合交通戦略協議会 議事録

1. 開催日時 平成 27年 6月 12日(金)14:00～17:00

2. 開催場所 本町プラザ 1階ホール

3. 出席者及び欠席者の氏名(いずれも敬称略)

(1)出席委員(23人 うち代理出席6人)

名城大学理工学部社会基盤デザイン工学科教授	松本 幸正
三重交通(株) 四日市営業所長	高田 和昭
三岐鉄道(株) 取締役鉄道部長	雨澤 隆生
NPO法人生活バス四日市 理事長	西脇 良孝
近畿日本鉄道(株) 鉄道事業本部 企画統括部 営業企画部 課長	森本 治実(代理出席)
伊勢鉄道(株) 常務取締役総務部長	神山 隆
四日市あすなろう鉄道(株) 代表取締役常務 鉄道営業部長	太田 裕治郎
四日市市自治会連合会 理事	原田 禮嘉
四日市商工会議所 総務部長	山下 項士
神前地区まちづくり推進委員会 バスプロジェクトリーダー	佐野 しのぶ
桜ボランティア協会 副会長	近藤 靖彦
四日市南警察署 交通一課 交通規制係長	加藤 佳則(代理出席)
国土交通省三重河川国道事務所 副所長	廣瀬 昌俊
国土交通省北勢国道事務所 副所長	深谷 亘
国土交通省三重運輸支局 首席運輸企画専門官	加藤 恒昭(代理出席)
三重県地域連携部交通政策課 主幹	大野 芳昭(代理出席)
三重県県土整備部都市政策課 主幹	松本 一彦(代理出席)
三重県四日市建設事務所 副所長兼保全室長	山田 篤
(公社)三重県バス協会 専務理事	青木 周二
(一社)三重県タクシー協会 専務理事	景山 和
(一社)三重県トラック協会 事務局長	西口 豪時(代理出席)
三重交通労働組合 四日市支部長	伊藤 由幸
四日市市都市整備部 理事	山本 勝久

(2)欠席委員(1人)

東海旅客鉄道(株) 管理部 総務課 課長代理	福田 英司
------------------------	-------

(3)出席オブザーバー

国土交通省中部地方整備局建政部都市整備課企画調査第一係長	中舎 明正(代理出席)
国土交通省中部運輸局鉄道部計画課長	加藤 弘彦
三重県警 交通企画課 課長補佐	相馬 進

(4)欠席オブザーバー

三重県警 交通規制課 課長補佐	植松 重光
-----------------	-------

(5)事務局

市都市整備部道路整備課 課長	石田 尚弘
市都市整備部道路管理課 課長	萩 泰実
市環境部環境保全課 課長	人見 敏和
市都市整備部都市計画課 課長	川尻 裕司
市都市整備部都市計画課 公共交通推進室	大原 喜美、土井 啓司

#### 4. 配付資料

##### 【事前配布資料】

事項書、委員名簿、協議会規約

資料－1 四日市市都市総合交通戦略に基づく平成26年度の取り組み実績一覧表

資料－2 四日市市都市総合交通戦略に基づく平成26年度の取り組み実績位置図

資料－3 平成26年度取り組み実績及び平成27年度の取り組み予定調査表

資料－4 中間見直しに向けた各施策の進捗状況について

資料－5 「四日市市都市総合交通戦略」と「四日市市地域公共交通網形成計画」の統合について

資料－6 今後のスケジュール(案)について

##### 【当日配布資料】

席次表、出席者名簿

「みえエコ通勤デー」実施要領(案)(三重県提供資料)

#### 5. 会議傍聴者等 1人

#### 6. 川尻都市計画課長あいさつ(内容省略)

#### 7. 会議公開及び議事概要公開の報告 ⇒ 了承

#### 8. 委員紹介

#### 9. 議事

##### (1) 四日市市都市総合交通戦略に基づく施策の取り組み状況について

##### ① 平成26年度の取り組み実績報告及び平成27年度の取り組み予定について

資料に基づき、市から説明(資料3 No1～No27)

##### (質疑応答)

A委員 : 実績報告において、それぞれの施策の取り組みによって、成果が出たものについては、成果も報告した方がよいのではないかと。

事務局 : この協議会を進行管理していく上で、施策の取り組みの成果や効果を目に見える形で表していくことが事業の進捗にも繋がるため、効果が表せる取り組みについては、効果も示せるよう、各事業者の皆様と協議させていただいた上で、次年度の協議会資料を工夫していきたいため、ご協力をお願いしたい。

座長 : 効果が表せる取り組みについて、効果を表すことは重要であるが、効果を表すことが困難な取り組みもあるため、「安全教育」など、評価指標でチェックするものと、「エコ通勤」など、実施率という成果でチェックするものに分けた方がよいと思われる。

また、「歩道整備」については、整備前に比べ、歩行者数がどの程度増えたかなどが見えると整備効果が図りやすくなるため、次回以降、示していただけると良いと思う。

座長 : 水沢地区の社会実験運行バスの取り組みに関して、今年度はどのような取り組みを計画しているか。

事務局 : 昨年度、水沢地区において、4週間、無料で社会実験を実施し、どのくらいのニーズがあるかを調査したが、厳しい結果となった。

桜地区・水沢地区は、市内において、公共交通の空白地域であるため、今年度は下期に2ヶ月程度の社会実験を有償で行う予定である。現在、詳細について、地元と協議中である。

- 座 長 : 地域住民の間で「このバスを使おう」という方向になるよう、協議を進めていただきたい。
- B 委員 : コミュニティバスに対する補助制度を拡大していただいたことは大変ありがたい。今後、黒字化に向けて努力し、バス停の改修等も進めていきたい。
- また、乗客を増やすための取り組みとして、利用者が団地の中で挙手すれば、どこでも停車できるよう、フリーのバス停を導入できれば良いと考えている。民家の少ないところにバス停を増やすのは難しいが、フリーのバス停の導入について検討できないか。
- 事務局 : フリーのバス停は、幹線道路などでは交通安全の面で難しいと思われるが、交通状況やバス事業者の体制等を踏まえ、検討していきたい。
- 座 長 : 何よりも安全確保が重要である。警察とも協議し、安全確保を前提とした上で検討を進めていただきたい。

事務局 : 取材のため、報道関係者が入場されたことについて報告。(途中入場)

### 引き続き委員(交通事業者)から説明(資料1～3 No28～No45)

(質疑応答)

- C オブザーバー代理 : 鉄道軌道安全輸送設備に関する補助金について、平成 26 年度は、全国的に要望が多かったため、当初内示は要求額に満たなかったが、緊急経済対策として補正予算が確保され、補正予算と 27 年度の当初予算を合わせて、平成 27 年度の事業計画に取り組むこととしている。
- 今後も全国的に安全対策に係る計画が継続するため、十分な予算が確保できないことも想定されることをご報告させていただく。
- 座 長 : 今後も密に情報交換しながら、安全対策を進めていただきたい。
- 座 長 : 利用者への情報発信等は非常に重要な時代である。三重交通が取り組んでいるバスロケーションシステムについて、昨年度、接近情報アクセス数は、対前年度比 220%とのことであり、利便性向上に向けた良い取り組みである。
- 座 長 : 三重県で情報を集約し、プロバイダに出すなどの予定はあるか。
- 事務局 : 市町のコミュニティバスに関して、「見える化」できるよう、検討を進めていくと三重県から聞いている。
- 会 長 : 三重交通が導入する予定の IC カードは、三重交通オリジナルのカードか、また、全国的に使用が可能なカードか。
- D 委員 : 現在、本社で検討中である。
- 座 長 : 三重交通以外の交通事業者は IC カードの導入を検討しているか。
- E 委員 : 導入には課題もあるが、今後、検討していきたい。
- 座 長 : 四日市あすなろう鉄道は、どのような状況か。
- F 委員 : 当社発足当時に検討したが、四日市市とも相談し、コスト面で導入は困難であると判断した。
- 座 長 : 本来、IC カード導入費用は、各交通事業者で負担するのではなく、インフラとして公共で整備していくのが理想である。日本の制度では、その実現は困難であると思われるため、各事業者において、出来るところから取り組んでいただけるとありがたい。

（質疑応答）

事務局：歩道の樹木の根が道路に盛り上がり、車椅子で通行しにくい箇所があるという、ご意見をいただいた。樹木は、これからの暑い季節には、木陰で休息できるなどの効果もあるが、樹木が非常に大きくなり、対策が必要となっている箇所も見受けられる。コスト面から抜本的な対策は困難であるが、情報を寄せていただければ、できる範囲で対応させていただきたい。

また、近鉄四日市駅前周辺の交通量の少ない道路について、一方通行に改良することで発生する用地を送迎用や荷捌きスペース等に有効活用してはどうか、という提案をいただいた。荷捌き地の確保や、人の流れをつくる等の目的で、以前、関係者に相談したが、合意形成には至らなかった経緯もある。京都や奈良の事例については、大きな背景があるため、合意形成が図りやすかった可能性もある。

現状、利便性を重視するニーズも多いため、一方通行に改良することは困難であると考えているが、チャンスがあれば改善できるよう、取り組んでいきたい。

座長：京都・奈良は実証実験を重ね、関係者間でやっと合意形成を得た。観光客が多いことも、実現できた理由の一つであると思われる。

歩行者空間を広げることや、荷捌きスペースを確保することを目的に改良する場合等、関係者間における合意形成が何よりも重要である。

人々が多く行き交うことができ、物流面でも活性化が図られているまちになれば良いと考えている。

D委員：現在、四日市市において、内部・八王子線の内部駅、西日野駅の駅前広場の整備が進められているが、西日野駅前にはバス停もあるため、ミニターミナル的な感じでバス停に屋根を設置していただくことはできないか。

事務局：内部・八王子線の利用促進を図っていくことは四日市市として重要な要素である。駅前広場の整備は、用地の問題もあるが、ご提案いただいたバス停の屋根などは、利用促進の一環として乗り継ぎ環境を改善するためのものでもあり、今後、バスと鉄道の両方が残れるような形を目指し、検討を行っていく。

座長：拠点整備は必要であるが、乗り継ぎが便利になりすぎるのも問題である。人々が留まれるような環境空間の整備も重要であるため、駅前広場の整備にあたっては、そういうことも視野に入れ、進めていただきたい。

Cオブザーバー代理：大人でもバスの乗り方やバス路線の見方がわからない人がいるため、バスの乗り方教室は、子どもだけでなく、高齢者も対象として実施してはどうか。

例えば、孫と一緒にバスの乗り方教室への参加を促してはどうか。また、警察が実施している講習・免許証の自主返納についても、同様に孫との交流の場として利用してはどうか。

座長：孫との交流は大切であり、例えば、バスの乗り方教室と警察の免許自主返納をセットにしたメニューを検討できないか。

事務局：本日、ご提案いただいた意見を取り入れつつ、実施主体と連携し、広く周知していく方法についても検討したい。

座長：立地適性化についてはどうか。

事務局：コンパクトシティや高齢化社会に向けて、取り組みが必要である。四日市市マスタープランにも位置づけている通り、限られた資源を有効活用することとし、これ以上都市を拡大するのではなく、「いまあるものをきちんと使う」という方針で進めている。

立地適性計画については、今年度から準備作業に着手することとしており、検討にあたっては、その概念を取り入れながら進めていく。

座 長 : どの都市でもそこを目指さないといけないが、行政だけでできることでもないため、地域の方々の協力をいただきながら、進めていただきたい。

B委員 : 羽津地区は、鉄道（近鉄）と道路が平面交差する箇所が複数あり、現状、踏切内は歩車道の分離がなされていない。歩行者、自転車の安全を確保するため、踏切内の歩車道分離について、検討していただきたい。

事務局 : 老朽化している踏切の更新にあたり、道路部分を段差のないフラットな状態に改良していただいた。少しずつではあるが、良くなっていくものと考えている。また、踏切の幅については、容易には拡幅できないと聞いているが、道路管理者として、鉄道事業者と相談させていただきながら、安全な道づくりを進めていきたい。

Gオブザーバー : 踏切前後の道路に歩道が整備されている場合、踏切内に歩道を整備することは可能である。毎年、各県内で道路事業者と鉄道事業者が課題を抽出し、対応について検討するなど、調整会議を行っていることを参考にご報告させていただく。

座 長 : できるところから少しずつ進めていただきたい。

バス協会より、「みえエコ通勤デー」実施要領（案）について説明。

(質疑応答)

座 長 : 非常に良い取り組みである。関係者が連携し、積極的に進めていただきたい。

#### ②資料－4 中間見直しに向けた各施策の進捗状況について

資料に基づき、事務局より説明。

(質疑応答)

座 長 : 今後、どのように見直ししていくのか。また、どのように意見集約を行っていくのか。

事務局 : 資料4は、事務局で取りまとめさせていただいた内容であるため、まずは、内容をご確認いただきたい。

後期五ヶ年の取り組みに向け、計画の見直しに関する様式等は、改めてお知らせさせていただく。例えば、見直し内容が大きく、戦略全体に大きな影響が出る取り組みが多い場合は、年度内に再度、協議会を開催し、後期五ヶ年の計画について、委員の皆様と議論していただく必要があると考えている。

見直し内容が小さい場合や、計画期間の延伸等が多い場合であれば、事務局で案をまとめた上で、次年度の協議会でご確認いただきたい。

皆様方から報告いただく内容を確認した上で、改めて、事務局より会議の招集等について、ご連絡させていただく。

座 長 : 計画の見直しについて、いつまでに事務局に報告すればよいか。

事務局 : 今年度の事業の進捗状況も見通した上で、後期5ヶ年の計画を検討する必要があるため、今年の9月末頃を目処にご報告をお願いしたい。

#### ③資料－5 「四日市市都市総合交通戦略」と「四日市市地域公共交通網形成計画」の統合について

事務局より説明 ⇒ 了承

座 長 : 今後、「四日市市都市総合交通戦略」と「四日市市地域公共交通網形成計画」の統合に向け、検討を進めていく必要があるため、皆様方のご協力をお願いしたい。

#### ④資料-6 今後のスケジュール(案)について

事務局より説明 ⇒ 了承

座長：先ほどの議論により、事務局から提案されたスケジュールよりも、早くなる場合もあるが、後期5ヶ年に向けた取り組みにあたり、計画の見直しについて、9月末までに事務局に報告をお願いしたい。なお、見直しする場合、必ず、変更理由も整理していただきたい。

#### 4. その他

##### 各交通事業者間の案内の充実について

事務局：利用者から乗り継ぎ等について、交通事業者に質問があった場合、できる限り丁寧な案内をお願いしたい。四日市は、近鉄・JR・あすなろう鉄道など、複数の路線があり、また、バス乗り場も複数に分散している。

特に、他市町から四日市を訪問された方は、土地勘がないため、初めて訪れた方にもわかりやすい案内をお願いしたい。

座長：他市町からお見えになった方にも、わかりやすく案内してほしいとのことであるが、具体的にはどういったことが挙げられるか。

事務局：四日市市では、交通戦略の分化会などでも議論していただいたサイン整備を進めている。

駅前には、総合的な案内板を設置した他、矢羽型の案内板なども設置し、初めて訪れた人でも案内板を見ながら円滑に乗り場等の移動ができるよう整備を進めているため、各交通事業者にもご協力をお願いしたい。

座長：その他、全体を通して何かご意見・ご質問等があれば伺う。

A委員：冬季の大雪の際、チェーンや冬用タイヤを装備していない一台の車が、高架橋などで、動けなくなった結果、後続の数百台の車が通行できなくなり、大きな影響が発生することがある。そのため、この協議会では、各施策の進捗管理だけでなく、そのような場合の対応についても、関係者が連携して検討する必要があると考えているがどうか。

事務局：当協議会は、限られた会議体であるため、そのことを、この協議会の中で議論するのが良いのか考える必要があるが、特に災害時において、市民の方々へ啓蒙できるような会議体をきちんと作っていくことは重要であると考えている。

今回、事務局より提案させていただいた通り、「都市総合交通戦略」と「地域公共交通網形成計画」の二つの体系を一つに統合し、会議体をシンプルにしていきたいと考えている。今後、必要に応じて、市内部でも調整し、国、県に相談させていただきながら、検討していきたい。その際は、ご協力をお願いしたい。

座長：これだけの交通事業者が集まる場は、他になく、議論するには良い場であるというご意見である。これまで、この協議会で交通戦略に関する計画を策定し、主に進捗管理を行ってきたが、運用のところで今後どうするのか、事務局で検討いただきたい。

B委員：夢のような話ではあるが、近鉄四日市駅とJR四日市駅を繋ぐ中央通りは、道路幅員が広いいため、道路幅員を縮小することで、新たに発生する用地にバス停を集約させることを検討してはどうかと考えている。

現在の近鉄四日市駅の西側・東側の用地だけでは限られたスペースであるため、中央通りの半分くらいを駅前広場の整備に活用してはどうか。

また、近鉄四日市駅からJR四日市駅まで地下街をつくれれば、新たな人の流れもできるのではないかと。

事務局：近鉄四日市の駅西広場については、検討に時間を要しているが、現在、駅西広場・東広場

も含め、新しい駅前広場の計画について、庁内で検討を進めているところである。  
計画が、ある程度固まってきた段階で、議会、市民の皆様、協議会の場でも提案させていただき、広くご意見をいただきたいと考えている。  
少しでも夢のある広場の計画ができるよう、努力していきたいと考えている。

座 長 : 駅前広場の概念を取り払い、有効活用してはどうか、という大きい提案である。  
事務局からの回答にもあった通り、駅西広場の整備について、現在、検討を進めていると  
のことであるため、戦略の見直しのところで、その取り組みも入れていただければと思う。

※配布資料の字句の修正が必要な箇所については、後日、事務局で修正を行うことについて、了承。

以上